相　双
「食」と「ふるさと」
新生運動ニュース

No.２０　２０１８年１２月
福島県相双農林事務所

メニュー
◆第１回ふくしま植樹祭～ABMORI～
◆「発見しよう！親子で学ぶ農林水産業見学体験ツアー」
◆葛尾村で畜産の再開が進んでいます
◆試験栽培ホンシメジの出荷（大熊町）
◆浪江町酒田地区稲刈りイベント
◆旧避難指示区域内のほ場整備工事後、初めて水稲が作付けされました！
◆大規模生産ほ場を活用したたまねぎの生産安定に向けて
◆「相双地方林業労働安全衛生講習会」を開催
◆「相双・地産地消料理コンテスト」＆「最優秀賞作品の振る舞い」の実施
◆「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを開催
◆そうそう・６次化産品フェアを開催
◆ふくしまフェスタで相双地方の農林業をPR
◆続々と第三者認証ＧＡＰ農場が誕生しています！
◆小泉武夫先生の出前講座を相馬市で開催します

第１回ふくしま植樹祭～ABMORI～が開催されました！

11 月４日、第 69 回全国植樹祭の理念を継承した「第１回ふくしま植樹祭～ABMORI～」が南相馬市鹿島区北海老の海岸防災林造成地で開催されました。本植樹祭は、「未来につなぐ希望の森林づくり」をコンセプトとし、歌舞伎俳優の市川海老蔵さんも参加しました。

第６回南相馬市鎮魂復興市民植樹祭と共同開催とした本植樹祭には、南相馬市民の方はもちろん、県内外から約 3,000 人の方が集まり、クロマツ 9,000 本、タブノキなどの広葉樹 21 種 18,000 本の植樹にみんなで汗を流しました。

植樹が終わった後は、薪割りや木工体験などの交流イベントに参加したり、ゆっくりと昼食をとったりと秋晴れの穏やかな一日をみんなで満喫しました。

「ふくしま植樹祭参加者全員の集合写真」

「市川海老蔵さんの植樹の様子」

「植樹の様子」

「薪割り体験の様子」

「発見しよう！親子で学ぶ農林水産業見学体験ツアー」を開催しました

小学生とその保護者を対象に、生産者の皆さんとの交流や農作業体験などを通して、相双地方の農林水産業の状況や取組について、親子で楽しみながら学べる日帰りバスツアーを１１月１１日、２４日に開催し、合わせて４０組８０名の親子が参加しました。

１１日は広野町と楢葉町へのバスツアーを行い、広野町の「みかんの丘」や楢葉町のゆず農家を訪問し、みかんとゆずの収穫作業を体験しました。また、木戸川漁業協同組合（楢葉町）では、サケの合わせ網漁やふ化場の見学などを行いました。

２４日は新地町と相馬市へのバスツアーを行い、新地町ではりんごの収穫や新地町産蕎麦粉を使用した蕎麦打ちを体験しました。午後からは相馬市へ移動し、磯部水産加工組合の小女子・しらす等の加工設備や放射性物質検査の見学のほか、海岸防災林の復旧状況の説明を行いました。

参加者からは、「子どもに良い経験をさせることができた」、「普段見られない所を見学することができてよかった」などの感想が寄せられ、相双地方の農林水産物の魅力を体感してもらうことができました。

（企画部）

「ゆずの収穫体験（楢葉町）」

「サケの合わせ網漁の見学（楢葉町）」

「りんごの収穫体験（新地町）」

「蕎麦打ち体験（新地町）」

葛尾村で畜産の再開が進んでいます

葛尾村では、平成３０年１０月までに和牛肥育農家１戸、和牛繁殖農家１０戸、酪農家１戸、ブロイラー１戸が再開しました。畜産を再開するためには、家畜に飲ませる水、牧草等の放射性セシウム濃度が基準値を下回ることや畜舎の飼養環境状況確認検査（清掃、修繕状況）に合格しないとできません。

平成２９年３月に帰村した下枝さんは、母親の手伝いで牛飼いをしていましたが、少しずつ牛飼いの面白さを肌で感じ、同年１２月には鹿児島県の子牛市場から自分の気に入った雌子牛３頭を購入してきました。この子牛を自分の手で育て、９月に開催されたＪＡ福島さくら和牛育成管理共進会に出品し、グランドチャンピオン賞を受賞しました。

「共進会でグランドチャンピオン賞を受賞（下枝氏）」

また、平成３１年の原乳出荷再開を目指し、９月から乳牛飼養実証事業に取り組んでいる佐久間牧場では、北海道乳牛市場から試験に供試する妊娠牛８頭を導入し、飼養を開始しました。

（双葉農業普及所）

試験栽培ホンシメジの出荷（大熊町）

平成２８年度に県が品種登録した「ホンシメジ」の試験栽培が、昨年に引き続き大熊町の「おおくま未来合同会社」で行われました。「おおくま未来合同会社」は、町の復興を願い地元の建設業者等で組織された団体です。

今年は、きのこ振興センターで培養した袋栽培・100 袋、瓶栽培・1700 瓶の菌床を１０月上旬にハウスに伏せ込み、水管理、湿度管理を行い、発生操作を行いました。

１０月下旬より発生が始まり、全体で５０ｋｇ以上の収穫がありました。１１月８日には大熊町長を囲んで関係者による試食会が行われ、贈答用として４０箇以上出荷されました。

試験栽培を２年間実施して、本格栽培まで発生率、コスト等課題が明確になりました。

（富岡林業指導所）

「ハウス内で発生しているホンシメジ」

「出荷のための箱詰め状況」

浪江町酒田地区稲刈りイベント

「手刈り体験の様子」

10月6日、浪江町酒田地区で稲刈りイベントが行われ、栽培管理者である松本清一さんのほ場で、酒田地区の方々の指導のもと東京、新潟、福島の大学生や、地域の子供たちが参加し、稲の手刈りを体験しました。

今回収穫した稲は、今年の5月に大学生と地区の方々で手植えしたコシヒカリです。夏の高温により、厳しい栽培条件となりましたが、松本さんの適切な管理で無事収穫を迎えました。

参加者は稲刈り作業を体験するとともに、震災後の取組や米作りについて地区の方からの話に、熱心に耳を傾けていました。

浪江町では昨年まで安全性を確認する実証栽培が行われていましたが、今年から出荷を目的とした水稲の栽培が可能になりました。今年度収穫されたお米は全量全袋検査にかけられ、既に検査が済んだ新米の一部はおむすびにして当日の参加者に振る舞われました。

（双葉農業普及所）

旧避難指示区域内のほ場整備工事後、初めて水稲が作付けされました！

南相馬市小高区「飯崎」地域は、福島第一原子力発電所から20km圏内にあり、原発事故により避難指示区域に指定されたことから、全住民が避難を余儀なくされた地域です。

避難指示の解除後も、多くの住民が避難している状況にあり、地域の農業存続が危ぶまれていましたが、担い手農家を中心とした有志の方々の強い決意により、農業の再生・継続に向け、ほ場整備事業「飯崎」地区として、平成28年度に、農地の大区画化工事に着手しました。

着工から2年が経過し、整備された農地が順次、受益農家の方々へ引き渡しできるようになり、旧避難指示区域内におけるほ場整備工事後の農地において、初めてとなる水稲の作付けが約12haで行われました。

他にも、大豆約15haを作付しており、収穫した米、大豆は市場に出荷されるなど、少しずつではありますが、地域の農業再生の息吹を感じ取れるようになっています。

また、このような復興の姿が追い風となり、小高区内では、農業再生に向けた取組が加速しており、今年度、ほ場整備事業として、「小高東部」地区が着工したほか、新たに「片草」、「岡田」地区が測量・設計に着手する見通しとなっています。

今後も、地元の皆様の営農意欲を後押しできるように基盤整備工事を鋭意進めてまいります。

（農村整備部）

「左側が大豆、右側が水稲の作付け」

「稲刈りの様子」

大規模生産ほ場を活用したたまねぎの生産安定に向けて
～「次世代を担う地域農業先端モデル実証事業」地域協議会及び現地実演会～

「自走式畑かん散水機の実演会の様子」

１１月７日、南相馬市ひばり生涯学習センターにおいて「次世代を担う地域農業先端モデル実証事業（以下「モデル実証事業」）」地域協議会を開催するとともに、同市原町区馬場地区のたまねぎ作付ほ場にて現地実演会を開催しました。

たまねぎについては、土地利用型園芸品目として南相馬市を中心に作付され、本年度は１０ha を超えるまで拡大しています。

しかし、露地栽培のため天候及び土壌の影響を受けやすく、安定した単位収量の向上が課題となっていました。このため、今年度から「モデル実証事業」により、移植直後の初期生育、春からの伸長肥大を確保する技術として、品種比較や生育初期の小トンネル、露地かん水の方法等について実証ほを設置しました。

地域協議会においては、協力農業者、業者、南相馬市、ＪＡふくしま未来などの関係機関出席のもと各実証技術の内容について共有し、実施成果を発信していくことなどが了承・確認されました。

また、実演会では、管内たまねぎ生産者を集め、馬場地区ほ場にて実証技術の１つである自走式畑かん散水機の実演を行いました。参加者からは、散水範囲や時間当たりの散水量、自走するための水圧など様々な質問がなされ、新しい技術への関心が高いことが伺えました。

来年３月にも実演会を予定しており、本実証をとおしたたまねぎの生産安定を図り、管内の土地利用型園芸品目の生産拡大を進めていきます。

（農業振興普及部）

「相双地方林業労働安全衛生講習会」を開催しました

相双地方では、これから間伐作業が本格的に行われる時期となることから、直接作業に従事する作業員の方々の労働安全衛生に対する意識向上のため、１１月２１日に南相馬市生涯学習センター「サンライフ南相馬」において、相双地方林業労働安全衛生講習会を開催し、相双地方で森林整備を行う森林組合等の事業体２８社から１５３名が参加しました。

講習会では、相馬労働基準監督署労働基準監督官の増田憲太氏より、相馬労働基準監督署管内の労働災害状況及び関係法令についての説明があり、また、林業・木材製造業労働災害防止協会東北地区担当安全管理士の斎藤文彦氏からは、「林業の労働災害の実情を知る」と題し、具体的な事故事例と共に事故防止のポイントについて指導を受け、参加者はそれぞれの講習内容を身近な問題として関心を持ち、熱心に聞き入っていました。

相双農林事務所では、林業労働災害ゼロを目指し、現場作業員の方々への注意喚起を行っていく予定です。

（森林林業部）

増田労働基準監督官による講習

斎藤安全管理士の安全指導

「相双・地産地消料理コンテスト」＆「最優秀賞作品の振る舞い」を行いました

家庭での相双地域の米の消費拡大を目的に「相双地域のお米を使った“お手軽簡単！お米のレシピ”料理コンテスト」を開催し、応募総数 189 作品から一次審査（書類審査）を通過した８作品について、二次審査（調理・実食）を 10 月 14 日に南相馬市の万葉ふれあいセンターで行いました。サッカー日本代表シェフの西芳照氏を審査員長に審査を行い、最優秀賞には、相馬市の門馬右恭さんの作品「青ばた豆のシラスチーズご飯」（一般部門）と、南相馬市の平山拓海さん・かおりさん親子の作品「色どり野菜のライスコロッケ風」（親子部門）が選ばれました。

最優秀賞に輝いた２つの作品は、10 月 27 日及び 28 日に南相馬ジャスモールで開催された「ＪＡふくしま未来そうま地区第３回ＪＡまつり」において、西芳照氏監修・調理のもと各 500 食を来場者に振る舞いました。

（企画部）

（一般部門最優秀賞）

（親子部門最優秀賞）

「青ばた豆のシラスチーズご飯」「色どり野菜のライスコロッケ風」

「料理を監修・調理して振る舞う西芳照シェフ」

「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを開催しました

県では、県産農林水産物の安全性やおいしさなどを PR し、販売促進につなげることを目的に「おいしい ふくしま いただきます！キャンペーン」を実施しています。

相双農林事務所では、９月から 11 月にかけ、「ふたばワールド 2018in なみえ（９月 28 日、浪江町）」、「いわき大交流フェスタ（10 月６日、いわき市）」、「JA ふくしま未来そうま地区第３回 JA まつり（10 月 27、28 日、南相馬市）」、「そうそう・６次化産品フェア in セデッテかしま（11 月 18 日、南相馬市）」の４会場で PR 活動を実施しました。

キャンペーンでは、旬の野菜やお米、花きなどが当たる復興状況に関するクイズやアンケートを行い、多くの来場者に相双地域の農産物のおいしさや復興状況を PR することができました。

（企画部）

「クイズの正解者に双葉地方産農産物をプレゼント（ふたばワールド）」

「うつくしまライシーホワイトによる相馬産米天のつぶの PR（JA まつり）」

そうそう・６次化産品フェアを開催しました

11 月 18 日、常磐自動車道南相馬鹿島サービスエリア「セデッテかしま」において、相双地域の６次化商品の販売会「そうそう・６次化産品フェア」を、県広報課で実施している「ふくしまフェスタ in セデッテかしま」と合同で開催しました。

フェアには、相双地方の事業者等９団体が出展し、出展者は各々の商品について、試食の提供をしながら、お客様と直接コミュニケーションをとり、販売へとつなげていました。

その中でも、県立ふたば未来学園高校では、生徒自らが手作りの焼き菓子を販売し、人気を集めていました。そのほか、お餅や漬け物などの懐かしい味や、ドレッシングやジャムなどの新しいを味を多くの方に味わってもらいました。

また、「ふくしまフェスタ」では、復興状況や観光に関する情報発信、特産品の販売、ガラポン抽選会などが行われ、連携しながら福島県の魅力についてＰＲしました。

（企画部）

そうそう・６次化産品フェアの様子

「県立ふたば未来学園高校の生徒が活動しました」

ふくしまフェスタで相双地方の農林業を PR しました

県では、風評払拭や風化防止を目的に、復興状況や取組、農林水産物や観光の魅力などを県と市町村等が連携しながら情報発信する PR イベント「ふくしまフェスタ」を県内及び首都圏において開催しています。

相双農林事務所では、９月１日のイオンモールいわき小名浜店（いわき市）、10 月 18、19 日に上野公園広場（東京都）で開催された「ふくしまフェスタ」に出展し、相双地方の農林業の現状や魅力について PR 活動を行いました。

イベントでは、農林業の復旧復興状況や魅力を紹介するパネルやリーフレットを準備し来場者へ説明を行ったほか、相双地方で生産された農林産物に実際に触れてもらい魅力を感じてもらうため、エコバッグやお米（相馬地方産天のつぶ）が当たる「野菜の重さ当てクイズ」やヒノキ・スギを使ったオリジナルコースターづくりを行い、多くの方に体験してもらいました。

（企画部）

「野菜の重さ当てクイズの様子（上野公園広場）」

「相双地方産スギ・ヒノキを使ったコースターづくり（イオンモールいわき小名浜店）」

続々と第三者認証ＧＡＰ農場が誕生しています！

県のＧＡＰ認証日本一を踏まえて、相双地方では、８月１日には「相双地方ＧＡＰ研修会」を開催すると共に第三者認証ＧＡＰ取得に向けた推進を行っています。現在まで、ＧＡＰの個人認証や団体認証を取得した農場が管内で表１のとおり続々と増えています。

ＧＡＰ取得農場からは、「改めて農薬や肥料の適正管理が可能になり、コスト低減になっている。」「従業員の雇用管理で役立っており、経営内容のレベルアップにつながった。」「生産工程をリスク管理することで、より安全・安心な農産物の生産が可能になった。」などＧＡＰに取り組んだ効果の声が聞かれています。

相双管内では、「ＪＧＡＰ」取得農場が増えていますが「ふくしま県ＧＡＰ」、「ＧＬＯＢＡＬ G.A.P」などもありますので、経営スタイルに合わせたＧＡＰ取得を目指しましょう。

「ふくしま県ＧＡＰ」には追加認証制度があり、他ＧＡＰ認定を受けている場合は書面での認証も受けられます。

相双農林事務所では農業者の皆さんのＧＡＰ認証を通じて、「農産物の安全・安心」、「ブランド力向上」を推進していきますので、よろしくお願いします。

（農業振興普及部）

［表１］　個別認証取得

取得農場	取得ＧＡＰ	認証日
株式会社グラン・ファーム	ＪＧＡＰ（穀物・青果物）	2017年9月6日
合同会社みさき未来	ＪＧＡＰ（穀物・青果物）	2018年5月15日
株式会社美野里ファーム	ＪＧＡＰ（青果物）	2018年9月10日
株式会社ひばり菜園	ＪＧＡＰ（青果物）	2018年9月10日
たなべ農園（田部政治）	ＪＧＡＰ（青果物）	2018年10月15日
株式会社KiMiDoRi	ＪＧＡＰ（青果物）	2018年3月20日

団体認証取得（ＪＡふくしま未来ＪＧＡＰ団体認証部会）

部会名	部会員数（内相馬地区）	認証日
な　し　GAP部会	６（４）	2018年4月28日
蔬　菜　GAP部会	１４（１）	2018年10月15日
水　稲　GAP部会	２４（７）	2018年10月15日

小泉武夫先生の出前講座を相馬市で開催します

相双農林事務所では、発酵学や食文化で著名な東京農業大学名誉教授の小泉武夫先生による講演会を開催します。小泉武夫先生から健全な心と体をつくる食生活について講話をいただくほか、お魚に関する食育活動に熱心な相馬魚類株式会社からお魚が持つ健康効果（お魚パワー）の秘密を教えていただきます。参加希望の方は相双農林事務所企画部までお申し込みください。

（企画部）

と　き：平成３１年１月２６日（土）１０：００～１２：００
ところ：相馬市民会館　多目的ホール（相馬市中村字北町５１－１）
定　員：先着１２０名（入場無料）　※席数に限りがありますので、事前のお申し込みをお願いします。

申し込み/問い合わせ先　　福島県相双農林事務所　企画部
電話 0244-26-1153　FAX0244-26-1181

ふくしまから
はじめよう。
Future From Fukushima.

福島県相双農林事務所　企画部　地域農林企画課
〒975-0031 福島県南相馬市原町区錦町一丁目 30 番地
Tel：0244-26-1153　Fax：0244-26-1181
http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36260a/
E-mail　kikaku.af06@pref.fukushima.lg.jp